

立教大学ジェンダーフォーラム主催 2023年度公開講演会
「フェミニスト経済学とその最新課題：金融排除／包摂のジェンダー分析」

日時： 2023年11月30日（木） 18：30～20：00
講師： 足立 眞理子氏（お茶の水女子大学名誉教授）
会場： zoom ウェビナーによるオンライン開催

2023年度の公開講演会は、お茶の水女子大学名誉教授の足立眞理子氏をお招きし、フェミニスト経済学の観点から現在の日本経済が抱える課題について、ご講演いただきました。

第二派フェミニズムの興隆のもとで成立したフェミニスト経済学は、経済学にジェンダーの視点を導入した経済学です。例えば、家事やケアなどの主に女性が担われ、市場や労働の外部に位置づけられてきた再生産領域の活動を、「家事労働」「ケアワーク」として再概念化してきたように、フェミニスト経済学は、既存の経済学において不可視化されてきたジェンダー不平等を可視化し、是正することを理念にしてきました。本講演会では、その観点から、現在の世界や日本の経済社会でどのような変化が起きているかを読み解いていただきました。

足立氏は、リーマン・ショックに代表される2008年のグローバル金融危機からの回復の過程で、IMFなどの国際金融機関に明確な認識の変化が生じたことに着目します。それは、経済成長がジェンダー格差の解消を引き起こすのではなく、ジェンダー格差の解消がかつての想定以上の経済成長をもたらすという認識の転回です。足立氏は、この認識の変化を背景に、今まで金融市場から排除されてきた女性が、金融市場に包摂されるといった転換が生じていると指摘します。つまり、女性は差別から生じた貧困に苛まれる脆弱な存在から、住宅ローンや教育ローンなどの再生産領域の金融化を推進する、新自由主義下における新たなエージェントとして再編成されているということです。

一方、アベノミクス以降の金融緩和政策は、円安の進行や株価の上昇によって海外に拠点を置くグローバルサプライチェーンが得た恩恵を日本経済に還流させないまま、物価高と勤労所得の減少を国内にもたらしめています。そして、有利な証券投資に誘導されて資産運用を行う富裕層と、資産をもたない脆弱な層との間に労働稼得では解消できない格差を発生させています。そうした状況で、「活躍」が「推進」される女性起業家は、起業資金の貸し付けと各種機材の半永久的なリース契約によって金融市場に過剰包摂され、長期的な負債を背負わされていると言います。また、資産形成が難しい若年層は、日本経済の見通しへの不安や将来の生活資金を「自助」で乗り切らねばならない焦りから、スマホ投資に駆り立てられ、西側先進国への投資等の行動にあらわれる無意識の日本見限りが進行していると足立氏は指摘します。足立氏は、今、日本で起きている金融領域への包摂は、「開発とジェンダー」の議論においては途上国で起こるとされていることであり、現状を正しく認識した上で、女性と若年層が希望を持てるようなオルタナティブな未来を構想すべきだと、ご講演を締めくくられました。



冒頭で足立氏は、フェミニスト経済学は、普遍的な客観性ではなく今・この立場依存的な客観性に依拠してジェンダー不平等の解消を目指すものだと言われました。日本や世界経済の現状をジェンダーの視点で鋭く分析された足立氏のご講演は、まさにフェミニスト経済学の理念を体現するものであり、現在の日本・世界経済の渦中にある学生やそのほかの視聴者にとって学びの多いものでした。講演後は、参加者の方々から「シェアリング・エコノミー」の名のもとで広まりつつある金融領域への包摂の問題や、構造的な暴力に加担しない経営がいかに可能かなど活発な質問が投げかけられ、足立氏に丁寧にご回答いただきました。極めてアクチュアルな問題について、示唆に富むお話をさせていただいた足立氏に、心からお礼を申し上げます。

（立教大学ジェンダーフォーラム事務局 片岡佑介）